いまから！

キャラバン隊の総括会議から

キャラバン隊行動日程

各地で熱心な交流

第一隊（九州各県）

十月十五日（木）
佐賀市評大会でアピール
夕方、社青同の仲間とともに街頭ビラくばり。

十月十八日（日）
正午、佐世保地区労着、事務局で交流のあと街頭でビラくばり。夕方佐世保をたち長崎に向う。長崎地区労会館に宿泊。

守る会の意味は？

十月十九日（月）
長崎地区労の案内で十二単組をまわり、パンフ、ヨーカンの協力とCO闘争の実情を訴える。夜、地区労会館にて社青同長崎地本の青年たち十三名と交流会。映画のあと交流に入る。
——CO闘争は補償闘争か？反合理化闘争か？
——守る会に入る意味はなにか？
——職場における災害闘争とどう結合させるか？
などが話し合われ、終了は午後十時。

十月二十日（火）
諫早地区労は午前十時着。社青同の青年たち四名と市内の八単組をまわる。午後二時より全電通諫早無線分会で十四名の組合員と交流会。
——三池CO守る会を作っているが、カンパのための組織にしかなっていない。CO問題を自らの問題として闘うことができていない。
——「みいけ」をもらっているが、全国の守る会運動の現状をもっと知らせてもらいたい。
——CO患者、遺族の者求を、もっと具体的にしてもらいたい。バクゼンとしている。
などの意見がだされ、今後お互いにがんばることを申し合わせて別れる。

十月二十一日（水）
正午、熊本県評着。地区労の案内で市内六単組をまわる。午後五時三十分から花畑公園にて一〇・二二反戦集会に参加、アピールをおこなう。
午後七時五十分から労働会館二階で映画と交流会。出席者七名。全員が県評青婦協の役員である。
——映画をみて本当におどろいた。ぼくらに何ができるのか真剣に考えなければ、一般的同情ではできない。人間とは何かということを改めて問い直された感じだ。
という意見が強くだされた。

水俣で交流

十月二十二日（木）
昼、水俣市に入り新日窒労組で中食。市内の四単組をまわり午後四時からチッソ正門で新日窒組合員とともにビラ入れとマイク情宣。
午後五時より新日窒労組会議室にて約三十名の組合員の参加をふまえて映画と交流会。水俣病闘争、チッソの大合理化提案をひかえて熱気あふれる交流会となった。
——はじめて実態をみたので実に痛ましく感じた。自分も水俣病にかかり、両親も水俣病でなくしチッソから痛めつけられているが、健康と生命を守るためにも、ぜがひでも手をたづさえなければならない。
——三池と水俣の交流を再び深めるために一週間ぐらいの予定でオルグをまねきたい。苦しみを持っている者同志の結びつきを深めなければならないのではないか？
などの意見がだされた。

十月二十三日（金）
午前九時半出水地区労にて訴え十二時十五分川内地区労着、居あわせた役員や書記の人たち五人に映画を上映。午後三時四十分鹿児島県評着。直ちに十単組を挨拶まわり。
午後六時から城山共済会館にて映画と交流会、出席は十四名。

十月二十四日（土）
午前十時十五分、宮崎県都城市都北地区労着、地区労の案内で六単組をまわり訴える。午後一時四十五分より地区労二階で青婦部の役員六名で映画会。終了後直ちに宮崎市に向う。
午後六時すぎより宮崎労働会館にて映画と報告会。出席は二十三名。
討論では第二組合のCO患者の状態、一億四千万円について、県評のCO闘争へのとりくみについての意見や質問がだされた。

街頭カンパも

十月二十五日（日）
午後一時、延岡市の県北地区労着。社青同、青婦協の青年たち約五十名と市内三ケ所で街頭宣伝とカンパ活動。およそ三時間で二万一千円があつまる。
午後六時より地区労三階日本間にて映画と報告会。出席は青婦協を中心に三十二名。
——CO闘争はひろがる条件がある。今後の闘いの訴えを、キャラバン隊が帰ったあとも、つづけていくべきだ。
——国鉄の合理化で、組織攻撃もきびしくなっているが、三池ではどのように第二組合対策をとりくんでいるのか？
など、CO闘争や労働運動全般に対する意見がだされた。

十月二十六日（月）
午前十時、大分県佐伯地区労着地区労の案内で六単組をまわる。中食後佐伯市をたち津久見地区労着。セメントの町の五単組をまわり午後六時から津久見地区労二階で映画と報告会。出席は各単産から約六十名。
映画のあとの討論では、
——長つづきする支援をするために継続的なヨーカン販売などをすべきだ。
——映画フィルムを借出しても、政治問題や公害闘争の中で、人間の生命の軽視という現実の姿を訴えていきたい。
——今後はぜひ恒常的に連絡をとり「守る会」に結集させていきたい。
という吸い意見が続出し、六千二百円の会場カンパがよせられた。

十月二十七日（火）
午前九時、公害反対のリコール運動が盛り上がった日杵市に入り地区労の案内で六単組をまわる。大分市に入り県評の案内で、さらに十単組でアピールをする。
午後六時から大分県労働福祉会館で二十九名の参加者をえて映画と報告会。カンパ六百二十円がよせられた。

交流の申し込み

十月二十八日（水）
午前十一時北九州地評着。地評の案内で二班にわかれ、十六単組をまわる。
午後六時から北九地評、社青同がそれぞれ主催した二つの映画と交流会。
交流会の中では紙パ労連連合紙器労組（第一組合）との交流が約束された。

十月二十九日（木）
午前九時半に直鞍地区労着。地区労の案内で九単組をまわる。自治労直方分会、鞍手分会、宮田分会などで組合員アピール。

十月三十日（金）
午前十一時三十分、福岡県評着地区労の案内で日本タングステン労組にいき、昼休みを利用して集まってもらった代議員のみなさん二十名に映画とアピールをする。
その後、不二家労組、全逓保険支部で映画上映のあと午後六時から九大工学部にて二十二名の学生さんたちの参加をえて映画と報告会。夏期児童対策に参加された学生さんたちとなごやかに交流のあと大牟田に帰る。

十一月四日（水）
午前九時八、佐賀県評着。午前中に佐賀市内の六単組をまわり、午後二時に鳥栖地区労着。鳥栖市内四単組をまわったあと午後五時半より鳥栖駅前で社青同の青年たちとともにビラくばり。

十一月五日（木）
唐津地区労に十一時三十分につき三単組をまわり、伊万里地区労にいく、五単組をまわり夜九時に大牟田着。第一隊の全日程をおわる。
第一隊は十一日間の日程で九州全県をまわり。
パンフ千二百四冊、ヨーカン八千三百九十一本、カンパ六万五千四百四十九円の協力をえた。

第二隊（山陽・関西）

十月二十四日（土）
午後、山口県評着。公労協青年婦人部大会でアピールのあと夜は全逓の青年と交流する。

十月二十五日（日）
午後二時ごろ広島市着。キャラバン隊独自で平和公園で約二時間ビラくばり。午後四時に広島地区労に寄り宿泊。

十月二十六日（月）
正午岡山県評につく。午後二時から五時までの間、白鳥オルグの案内で十五単組をまわる。夜に県評に宿泊。

十月二十七日（火）
午前中、姫路地区労着。昼休みを利用してキャラバン隊を二隊にわけ、日赤姫路支部、自治労姫路市職労で交流。午後二時半姫路をたち午後三時半、兵庫県評（神戸）につき打ち合わせ。
中央体育館でひらかれた「革新県政をつくる大政談会」に出席し入口で全員でビラくばり。その後壇上で挨拶する。

十月二十八日（水）
西宮市に入る。地区労で各単産代表者会議で訴えたあと、夜は十名の社青同、まなぶ会の青年たちと映画と交流会。
映画の内容は感動をよび組合運動について交流をつみかさねた。

十月二十九日（木）
午前十時、大阪総評着。大阪の日程三日間を打ち合わせをおこなう。三井鉱山への要請書をつくり大阪総評の案内で各単組をまわる。

十月三十日（金）
朝五時半から市現業労組の決起集会に一ケ所に参加しアピールする。大きな反響をよぶ。
その後、枚方市の大栄紙工労組岸和田市での総評一千ケ所討論集会でアピールする。

十一月十一日（水）
岡崎地区労につき、前田オルグらの案内で三隊にわかれて組合をまわる。
各単組とも暖かい受け入れをうける。
夜は宿舎で地区労三役、各単組代表者と映画と報告会をひらく。
——CO患者に対して、どうすればいいか直ちに議論する。
——ヨーカン、その他の販売活動には積極的に協力しよう。
などが確認され、熱気あふれる交流会を終わった。

十一月十二日（木）
静岡県に入り遠州労働組合会議（地区労）の案内で単組まわり。その後静岡地区に入り、地区労の案内で単組をまわる。分裂攻撃をうけている組合や工場閉鎖に反対して生産管理をしている組合を中心にまわったので、非常にすなおに交流でき、また教えられるところが多かった。
夜は青年部を中心に映画と報告会。

逆に激励うける

十一月十三日（金）
神奈川県評入り。オルグの人たち四名の案内で二隊にわかれてそれぞれ川崎、横浜市内の単組をまわる。
夜、一隊はロック・アウト攻撃を目前にした横浜のある化学労組と交流。二隊は分裂攻撃で差別とイヤガラセの集中攻撃をうけているゼネラル石油労組（第一組合）と交流した。お互い分裂支配の実態を交流し激励をかわした。
なお、川崎地区労では
——CO闘争は終わったと思っていた。こんな実態があるのに、なぜ拡げないのか？
——炭労、総評は何をしているのか？
——三池出身のオルグや上部役員なども、CO問題については何もいわないが、三池はどうしているのか？
などと、逆にハッパをかけられた。

十一月十四日（土）
東京着。東京地評で打ち合わせのあと三多摩地区に入り各単産まわり。

闘いの発展におどろく

十一月十六日（月）
全国金属関係の各支部を二隊にわかれてまわる。全金支部は組合員の年令も若く、期末手当も二十万～三十万円で炭鉱よりもケタちがいに多い。
職業病闘争もほとんどの組合が弔慰金五百万円。通勤途上の事故の公傷扱い。公傷の前収補償などを獲得しており、三池労組がCO闘争でかかげる三つの原則もすでに制度化されている所が多い。組合事務所までニュース・カーの乗入れも自由にでき、組合運動のつよさに圧倒される。

情勢はいい、今こそ交流を！

七級獲得の闘いを目前にして去る十月十五日から出発した「三池CO闘争キャラバン隊」は各県評、地区労の協力を得ながら第一隊（九州各県、十月十五日から十一月五日まで）、第二隊（山陽、関西、十月二十四日から十一月三日まで）、第三隊（東海、関東地方、十一月九日から十八日まで）と各地で多くの反響をよびながら全日程を終了しました。
キャラバン隊は持っていったパンフ（「生命あるかぎり」第二集）、ヨーカンの販売について各地の仲間の協力を得ましたが、これらは三隊でつぎのような大量の成果を得ました。全国の仲間の暖いはげましに紙上をかりて感謝の気持をあらわします。（司会は渋田次長）

パンフ　二千八百三十五冊
ヨーカン　二万三千五十一本
カンパ　十一万六百四十九円

〝七年もたったのにまだやりよるとか〟

大切な伝えつづけること

【司会】キャラバンに行って、こんなことは良かったという点をだし合って下さい。
——CO闘争はまだつづいているということを広く訴えたことです。延岡市で青婦部の青年たちと一緒に街頭カンパに立ったときに通りかかったある男の人が
「七年もたつのに、またやりよるのかネ、いつまでやるのかネ」というので、労働者が再びこんな目にあわされないようになる日までですというと、「ほう、感心だネ」といってカンパをしてくれた。
——ある地区労では「CO問題をはじめて知った。三池はまだスミを掘っているのですか？」と聞かれるくらいで、とてもCO問題は忘れ去られているなどというよ
——たしかにPR不足を痛感した。ほとんどの人が新聞でときどき見るくらいなので、すみずみまで運動を進めるためには「みいけ」の発送だけでは不足している。

闘いの交流も

——水俣の新日窒労組との交流会では、チッソも来春には半数がへらされるという大合理化と、水俣病闘争をかかえ、三池と一緒に闘おうという具体的な申し入れがなされた。また、北九州では紙パ労連連合紙器の組合員が交流会にきて
「自分たちは三千名のうち第一組合は六十数名しかいない。いままで何のために第一組合にいるのかと問われたときに返答に困ってた。
——九州隊の反省会では参加した二組合員からつぎのような反省～～～